

大学図書館からの報告  
ゼロからの取り組み  
(業務改善事例報告)

2010.12.9

関東学院大学図書館  
小山 信 弥

# 関東学院大学図書館概要

- 関東学院大学図書館  
年間受入図書冊数  
    \* 約30,000冊  
継続雑誌種数  
    \* 約5,000タイトル

本館（経済学部・工学部）  
    └─ ローライブラリー  
人間環境学部分館  
    （人間環境学部）

文学部分館（文学部）

法学部分館（法学部）

# 本学の目録処理に抱えていた課題

- 2001年度までJPMARC準拠の目録処理（各館個別に処理）
- 2002年度システムリプレースによりNACSIS-CAT/ILL参加
- 目録の現場は、臨時職員（学院採用、学歴不問）が支えていたが、CATの講習会に参加できなかった。

専任職員は目録に対する知識や経験が希薄。

学術情報流通基盤としての目録の重要性の無理解。

\* 誰かがつくってくれる。



「業務分析表」と

「書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト最終報告」  
のインパクト

# 図書館組織再編成の動き

- 2005年度 人間環境学部分館の全面委託化
  - \* 当該分館での事務処理の遅滞が明らかになり、理事会で全面委託化が決定。（目録の問題も含む）
- 2006年度 全館と対象として、組織再編の検討に入る。  
全面委託への抵抗
- 2008年度～  
全館の受入・目録処理を本館に集中。  
臨時職員から派遣職員へ
  - 図書館係：専任4名 臨時職員8名
  - 2008～ 資料係：専任4名 派遣スタッフ7名
  - \* 全館庶務・受入・目録・システム・広報・渉外  
etc

# NACISIS-CATへの書誌登録開始に向けて

- 派遣スタッフ 司書有資格者を採用

前提

\* 司書資格は、もともと公立図書館の向けの資格。

\* 司書資格履修科目 情報組織に関する単位4科目8単位  
図書館資料論・専門資料論・資料組織概説・資料組織演習  
目録に関する授業は「資料組織概説」「資料組織演習」  
十分な目録知識を得る環境にはない。

参考：平成24年法改正 3科目6単位へ。

図書館法施行規則 附 則（平成二一年四月三〇日文科部科学省令第二一号）

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S25/S25F03501000027.html>

# NACISIS-CATへの書誌登録に向けて（2）

- 動機付け 日本「学術情報流通基盤」を支えているという矜持を持とう。

## 1年目にやったこと

4月～

目録規則NCR87R3、AACR2の記述総則の解説

コーディングマニュアル・目録情報の基準第4版解説

\* 立ち返るツールの明示。迷ったら各種ツールを参照することを徹底する。

Local上での書誌データ修正

\* 修正したデータの確認

和書流用入力の注意点の解説

# NACISIS-CATへの書誌登録の開始 (1)

- 1年目にやったこと

9月～ 和書流用入力 of 開始

- \* 書誌アップの前の書誌内容の確認
- \* スタッフの書誌作成事例報告
- \* コーディングマニュアル等勉強会 (継続)
- \* 「業務分析表」 「スタッフ業務内容」 の分析

当該年度のスタッフの交替 (3名)

スタッフ減の期間がある。

委託ではなく「派遣」を選んだので仕方がないこと。

## NACISIS-CATへの書誌登録の開始（2）

- 2年目にやったこと

洋書流用入力および既存書誌の修正

USMARCの特徴と流用入力の際に注意する点

既存書誌への書誌調整

事前登録書誌による混乱

\* BBの書誌IDを先頭に持つため、見分けがつきにくい

\* 必要な修正が行われずに所蔵がつけられている。

??派遣スタッフのモチベーションの低下??

「これでいいのか。。。??」



## NACISIS-CATへの書誌登録の開始（3）

- 3年目にやっていること

和書流用入力 専任職員チェックなしの登録へ  
段階的に移行

洋書流用入力 専任職員チェックなしでの登録へ  
段階的に移行

今までやってきて気がついたこと

- \* 重複レコードの多さ

（あるはずと思って探そう）

- \* 参照マークのままの記述

（これでいいのか、ツールを確認しよう）

- \* なやんだらQ&Aを検索

（先行事例に学ぼう）

## 次のステップへ（本学として）

- ・オリジナル書誌の作成
- ・特殊資料の書誌作成
- ・書誌調整の活発化 他の館の目録担当者に気づいてもらう。（ONE Person Library）

一図書館員として・・・。

他の機関に移っても、十分にやれるだけの人材を。  
基盤を支える人たちへの資源配分を考える。

\*資料組織に関わる人材の確保ができなくなる。

## 次のステップへ（本学として）

- 業務分析表の活用  
図書館内での分析・効率化のために使う以外の使い方はないのか？

大学経営層に対して、「貢献度」を主張できないか？

\* 誰に対する「貢献」なのか？（大学に、ではない？）

\* 「貢献度」をどうはかる？（新規作成数・所蔵登録数ではない？）

NIIからの表彰制度の有効性はあるのか？

今年度：館長・課長と大学長の面談で提示してみた。

学長からは一定の評価は得たが、今後  
どう影響するか。。

## 次のステップへ（提言）

「NACSIS-CATの世界では目録業務にかかるコストが分散し、効率的に用いられていないと感じる。」

情報組織化研究グループ月例研究会報告（2010.6）

<http://www.tezuka-gu.ac.jp/public/seiken/meeting/2010/201006.html>

インターネットへ対応するための図書館・システム

入江伸氏（慶應義塾大学メディアセンター本部）

では、どうするか。

「目録業務にかかるコストの集中と効率化」

次世代目録所在情報サービスの在り方について（最終報告）

- ・ a) 「目録センター」館の指定  
外部データの活用は本当にできるのか？（事前登録書誌）
- ・ b) インセンティブモデルの導入  
「参加機関に何らかの経済的な見返り」  
支えているスタッフに還元できるような仕組みを！
- ・ c) 参加機関の機能別グループ化  
b)とセットで考えるべきか。

# おわり

ご清聴ありがとうございました。

小山 信弥